

映画における文化要素と日本語教育

大川英明

要旨

本稿では映画における文化的要素を利用した授業のために実際の劇場映画にはそれを可能にするだけの内容と数を備えたものがあるかを「Shall we ダンス？」の分析を通して検討する。この映画には語彙、文法、句型など、日本語教育における基本的学習項目のほとんどが含まれるが、同時に日本の社会や文化の紹介や議論に役立つ様々な要素が含まれることを主張する。

【キーワード】映画、上級クラス、日本語教育における文化紹介、「Shall we ダンス？」

1. はじめに

日本語の授業でも他の外国語教育と同様、様々な視聴覚教材が使われてきた。絵カード、写真、イラストをはじめ、音声教材、VTR・映画教材、コンピューター教材等、色々あるが、本稿では周防正行監督の映画「Shall we ダンス？」の分析を通し、日本語教育における日本文化に関する学習可能項目について議論すると同時に、日本語教育におけるこの映画の利用価値について考えてみたい。

2. 日本語教育における映画利用

ビデオ教材には教科書を補助するために作られるものもあるが、日本語の授業のために劇場用の映画やテレビドラマを使用することも可能である。勿論、本質的な違いは前者が日本語教育のために作られるのに対し、後者は日本語教育とは独立して作られるという点にある。また、前者は実際上、比較的下の方のレベル（初・中級）での使用が多く、後者は上の方のレベル（中・上級）で使われることが多い。その理由は教科書用のビデオや日本語クラス用のビデオ教材はそこでカバーすべき学習項目を決めやすい下の方のレベルの方が作成しやすい一方、劇場用ドラマは下の方のレベルではそのまま全

編使用することが不可能だからということが考えられる。

しかしながら、映画やドラマは部分的にであれば、初・中級の授業で使用することは可能である。内容とレベルに合わせて色々な利用方法が考えられる。学習項目に合った場面だけを選び、部分的に使用すればよい。例えば、画像だけ利用してドリルを作ることもし、お辞儀の仕方を始めとした文化紹介にも利用できる。

1. 初・中級レベルでの劇場用映画、テレビドラマの使い方

- a. 文化紹介のための画像利用（お辞儀、会釈、名刺交換、家に上がる時の靴の扱い方、等、特に動きがあるものにはより効果的。）
- b. ドリルのための画像利用（特定の学習項目を含む場面のみを使用する。消音再生をし、その場面の状況を説明させたり、アフレコ練習などに利用。）
- c. 学習項目を含む場面のみを再生（聞き取り練習、理解確認、等に使用。）

初・中級では劇場映画やテレビドラマの利用は限られてくるのは当然であるが、これに対して上級またはそれに近いレベルではその利用方法と効果は飛躍的に拡大する。

まず、映画には音声、語彙、文法、文型、表現等、色々な学習項目が含まれているので、その学習や復習に役立つ。また、台詞を書いたスクリプトを用意すれば、漢字の学習にもなる。中・上級での映画利用には基本的に次のような意義がある。

2a. 既習項目の確認、復習

- b. より高度な文型・表現の学習
- c. 口語表現の学習
- d. 現実に近い会話が観察できる
- e. 総合的学習が可能

「既習項目の確認、復習」に関して言うと、多くの場合、映画には初・中級の学習項目の大部分が含まれているので、それらを映画の中で確認、復習できる。既習項目でも、自然な速さでの会話となると聞き取りが難しくなるので、学習者にとっては練習になる。

「より高度な文型・表現の学習」は初・中級で習う以上の文型・表現が学習できるということである。日本語能力試験の2級かそれ以上のレベルの学習者が習う項目である。

「口語表現の学習」は一般的な初・中級の日本語教科書ではあまりカバーされないが、次の例のように実際の日常会話では使用されるような表現の学習である。

- 3a. それがね：いや、それがね、「知らぬは本人だけ」なんて、結構あるんですよ。
- b. しょちゅう：その頃から母さんはあんたが大きくなったら、ダンス習うからねってしょちゅう言ってたんです。

- c. なに：なに、憎まれ口たたいてんの。
- d. それって・～てんの：それって、のろけてんの？
- e. だいたい～のに：だいたい、お父さんが早起きしてるっていうのに、お母さんが寝ているっていうのも結構つらいのよ。
- f. くせして・なにが～よね：システム情報課のくせして、ウィンドウズも知らないのに、なにが「どうコンピューターの調子？」よね。
- g. ～ったらありゃしない：どうしてもパートナーになってくれってうるさいから、ついて来てみれば、みっともないったらありゃしない。
- h. どうせ：どうせどっかの小金持ちで、暇持て余して、ホストクラブかなんかのつもりで来てるんだろう。

口語的な語彙や文型の他に、一般的な教科書で学ぶ機会は少ないが日本語話者が使う音声的な変異形もよく出てくる。

- 4a. 長音化：はい、グループレッスンのかたー。こちらへいらして下さい。始めますよー。/うそー。冗談でしょう。/やったー。
- b. 強調：もう、やんなっちゃうなー。（「や」に強勢）
- c. 促音挿入・「あれは」「ありゃ」：ダンスたって、これだろう？笑っちゃうぞ、ありゃ。みっともないだろう。日本人がおばさんとおじさんで。

映画は教科書用のスキットと異なり、より長いし、内容が豊かであり、その意味でも「現実に近い会話が観察できる」。映画で描写される背景や文脈において、言語表現は勿論、非言語伝達を含めてのコミュニケーションが観察できる。さらに次にあげるような日常の言語運用でよく見られる現象の学習にも役に立つ。

- | | |
|--------------|-------------------|
| 5a. 省略 | h. 挿入句 |
| b. 不完全文 | i. フィラー |
| c. 倒置 | j. 位相差 |
| d. 言い誤り | k. 不正確な発音 |
| e. 言い直し | l. 文体 |
| f. 繰り返し | m. 意図や心的態度のパラ言語情報 |
| g. 言い淀み・ためらい | |

「総合的学習が可能」というのは映画により日本語教育を総合的に実施することができるということである。具体的に言うと、言語表現、非言語伝達の方法を始め、文化的な側面の学習、一つのまとまった話の鑑賞とそれに関する議論、等、さまざまな目的の

ために使用することができるのである。この意味では特に上級レベルのクラスでは利用価値が大きいと言えよう。

筆者がよく担当する上級前期のクラスに入って来る学生には、高校の時に1年間日本留学をした経験を持つ者も時々いるが、多くの場合、口語表現をあまり習っていなかったり、日本の映画を見たこともない学生が比較的多い。このような場合、さらに映画を使った授業の意味が大きくなる。なかんずく、上級レベルでは文化的な要素もある程度は含めるべきだと思うし、文化に関する理解はアメリカの全米外国語教育協会（ACTFL：American Council on the Teaching of Foreign Languages）が策定した「外国語学習基準」（Standards For Foreign Language Learning Preparing for the 21st Century）の五つの柱のうちの一つにもなっている。

6. 「外国語学習基準」

- a. コミュニケーション（Communication）：学習言語でコミュニケーションを行う
- b. 文化理解（Cultures）：他の文化に対する知識や理解を深める
- c. 連携（Connections）：学習言語の知識を用い、他の学科・領域の情報を得る
- d. 比較（Comparisons）：学習言語と自国語を比較し言語と文化への洞察力を養う
- e. 交流（Communities）：国内外において、多文化・多言語社会に参加する

これら五つのCを見ると、文化的知識に裏づけされた言語知識を駆使しての運用能力の養成を目標にしているようである。同様に、中道（1996）も文化・社会理解を主要な能力として位置づけている。

7. 日本語能力総項目表（シラバス）の構築

- a. 言語体系操作能力：語彙・文法など言語体系的事項の意味と用法を知り適切に使用する能力を項目化する。
- b. 言語運用能力：実際の場面の中で、伝達すべきことに対する伝達手段の適切性を知り、適切に理解・表現する能力を項目化する。
- c. 社会的文化能力：日本文化において行動の基準として存在する社会的規則を知りそれに照らして他者の行動を理解し自ら行動する能力を項目化する。

日本語授業以外に日本の社会や文化に関する授業をとっていればその授業からも文化的知識を得ることができるが、日本研究専攻の学生ばかりではないので、日本語クラスでも極力日本文化について紹介、議論を重ねていくことが必要であろう。

日本に留学している場合はともかく、海外で日本語を学ぶ場合には映画利用は日本文化に関する基本事項の学習に効果を発揮する。

3. 映画「Shall we ダンス？」の利用

筆者は上級前期の日本語の教材の一つとして映画「Shall we ダンス？」を度々使用して来た。それは映画における語彙、表現、句型などの言語的項目がこのレベルに合致していることと、日本の文化、社会的な説明項目が多く含まれているからである。また、登場人物の心理解釈や内容についてのディスカッションでも話題を提供してくれる。

この映画は初・中級で習う学習項目をほとんど含んでいるので、初・中級が終了したばかりの学習者にとっても学習した項目の確認と復習になる。本稿では文化的な要素の分析をするので詳細は避けるが、一部のみをその例として紹介しておく。

述語の活用（普通体と丁寧体）、各種の助詞、基本構文、ウナギ文、やり・もらい文、受け身、使役、使役受け身、テ形接続、連用接続、比較構文、可能表現、モダリティを表す文末表現、数字、連体修飾、条件文、自動詞・他動詞、敬語、その他多数

4. 映画「Shall we ダンス？」における文化的要素

4.1 物質的なものと抽象的なもの

日本文化の全てを包含する劇場映画またはテレビドラマは存在しないと思うが、特に日本語のクラスで使うのに十分な要素を含む映画はあり得る。その一つが映画「Shall we ダンス？」である。日本語の授業でこの映画を使用する場合、文化面だけに焦点をあてて授業をすることは無いと思うが、その外国語学習の一部としての文化理解には十分役立つほどの内容と数は備えている。

筆者は関西外国語大学留学生別科の日本語プログラムでこの映画を使ってきた。クラスは上級前期レベルで、日本語能力試験で言えば2級前後のレベルであるが、句型、文法、語彙等の観点から、「Shall we ダンス？」の映画は最もこのレベルに適している。特に、関西外大でこのレベルに入って来る留学生は海外の大学における初級・中級レベルのクラスで日本語を2~3年ほど学んで入ってくる場合が多い。典型的な日本語教科書や読み教材のみで学んできたり、口語表現をほとんど学習していない場合や言語生活に必要な文化的側面をあまり学習していない場合が多い。また、映画やドラマやビデオを使った授業も全く受けたことがない学生もいる。このような学生にとっては特に映画を使った総合的な授業は有効で、「Shall we ダンス？」はいい教材となっている。

では「Shall we ダンス？」にはどのような文化的側面が含まれているのだろうか。この問題に関して検証していこうと思うが、大きく分類すると物質的なものと抽象的なものがある。物質的なものとは食べ物、道具、家などのようなもので、抽象的なものとは

制度、習慣、関係などである。また、映画において言語的に直接表現されることと、言語的に直接言及されていないけれども、背景として映像で映し出されるものがある。後者は映画での話・内容には必ずしも直接的な、重要な意味を持つことはなくても日本語の授業での文化紹介には役立つこともある。

4.2 物質的なもの

「Shall we ダンス？」は小さい会社で働く経理課長の杉山という 40 才半ばのサラリーマンが日常生活に物足りなさを感じている時に通勤途中駅近くの社交ダンス教室の女性教師に惹かれてダンスに打ち込む話である。

この映画で見られる文化的・社会的な要素を分析すると、上で述べたように大きく二つに分類できる。一つは物質的なもので、衣食住に関連するものが多く見られる。もう一つは抽象的なもので、習慣、制度、考え方などに関係する。この節では物質的なものについて扱う。杉山の自宅に関する会話や自宅での場面を例に多少の説明をした後、他の項目をリストで紹介する。

まず、家に関する話題が会話としても数か所で現れている。学習者は主人公の杉山の家がどんな家かはまず会社の同僚である服部との会話からわかる。

8. 青木：(杉山に)庭付き一戸建てですって？

また、後半では舞(ダンス教室の若い女性教師)との会話から杉山が何才の時に家を買ったかがわかるし、家の購入は人生の一大事であることがわかる。

9. 杉山：28 才で結婚、30 才で子供が生まれて、40 を過ぎたところで念願の家も買った。結婚、出産、マイホーム。そのために全力で働いた。

映画では杉山の家全体の間取りがはっきりとわかるような場面はないが、食堂、居間、書斎など一部の部屋での場面があるので、これらの場面を見る時に日本の住宅事情についての説明・議論ができる。

杉山の家は庭付きの一戸建てではあるが、杉山は小さな会社の経理課の課長であるので、それほど余裕のある生活をしているとは言えない。東京の中心部にある高い家ではない。映画ではそれをはっきりと表す言語表現はないが、杉山の通勤時間が長いことや周りに何も無い最寄り駅の様子から、杉山の家は都心からかなりはなれた地域にあることなどから推測できる。また、次の対話もヒントになっている。

10. 服部：で、部長さんは？

杉山：部長じゃないですけど、私は所沢の先の方だから電車で。

さらに、日本の家は年収の6倍以上するという事実と、多くの場合10～35年の住宅ローンで購入するという日本の住宅事情は次の会話を扱う時に紹介できる。

11. 杉山の妻：お母さんね、働くの13年ぶりでしょう。あんたがお腹にできて、仕事やめたから。だからね、大変だけど、なんだかちょっと楽しいの。ローンができてよかったわ。生活に張りができちゃった。

12. 杉山：(青木に)いや、なんだか会社に身を売ったというか、ローンを考えると。その他、衣食住に関する学習可能な項目について表をもって提示しておくが、言語表現として直接表現されているものと、画像に表れているものの双方を掲載しておく。

13. 物質的なもの

台詞・状況	文化的要素
杉山の妻：お茶漬けでも食べる？	お茶漬け、軽食、夜食
状況：杉山の娘がセーラー服を着て朝食をとっている。	セーラー服、制服
状況：青木が杉山と居酒屋へ行った時にスルメでダンスステップをさせる。	スルメ、酒の肴
状況：初心者の初めてのグループレッスンの後、杉山と青木がジョッキでビールを飲み、糖尿病の田中が持ち込みのペットボトルでミネラルウォーターを飲む。	ジョッキ、ペットボトル、アルコール飲料（通例はレストランへの持ち込み不可）
状況：杉山と青木がトイレでダンスにまつわる会話をしている場面が数回ある。	日本のトイレ事情、手拭用のペーパータオルがない所もあるのでハンカチが必要、温水洗浄便座
豊子：いや、私も疲れちゃって。もう、ジュース買って来る。 舞：だったら、あたしが・・・ 豊子：いいって。先生はお水ね。杉山さんはウーロン茶と。	ペットボトル、リサイクル、飲料水、自動販売機、コンビニ
状況：杉山の家キッチンに電気ポットや炊飯ジャー等が置いてあるのが見える。	日本の家電製品

映画の前半では杉山の妻が娘と自家用車に乗って話している場面がある。また、映画の後半で、杉山が家で洗車をしている場面がある。これは杉山がダンス大会で失敗をしてダンスをやめた後、服部と豊子が初めて訪ねて来た場面である。杉山の自家用車を見ると、ナンバープレートの色から軽自動車であることがわかる。軽自動車は税金などの維持費が安いという情報も映画の理解には必要になってくる。つまり、杉山の家が田舎にあり自家用車が軽自動車であることや、家のローンもあることから杉山は経済的にはそれほど余裕がないことがわかる。

4.3 抽象的概念

4.3.1 店舗・公共施設・公共機関およびそれに伴うサービス

杉山は郊外にある自宅から都心にある会社に電車通勤をしている。映画の中では通勤電車内での杉山の姿が数回描かれている。さらに、プラットフォームや駅のコインロッカーの使用の場面もある。

通勤風景としては夜の帰りの電車では杉山が疲れた様子でドアに寄りかかっている場面がある。反対に朝の通勤電車では杉山は座席に座り、本を読んでいる場面もある。杉山は都心からは遠い地域に住んでいるので、朝早く出勤し、座席を得ることができる。映画では乗車後しばらくは空いているが、次第に乗客が増え、満員になり、電車が大きく揺れたときには杉山の前に立っている乗客が杉山にのしかかり、杉山の読み物を押ししてしまうというような典型的な通勤風景を描いている。杉山が帰りの電車に乗るのは始発駅ではないようで、席を得ることは難しい。このようなちょっとした場面でも学習者は電車通勤の事情を知ることができる。

14. 店舗・公共施設・公共機関およびそれに伴うサービス

台詞・状況	文化的要素
状況：社交ダンスを習っていることが家族にばれないように杉山が駅のコインロッカーにダンスシューズ、その他の道具を保管する。	コインロッカーの利用
状況：杉山が駅の改札口を通る。	改札口の通過方法、切符の買い方
状況：杉山の家の最寄り駅は小さいので駅の出口のすぐそばに自転車が駐輪できる。	駅付近の駐輪状況

この他にも店舗、レストランなどを含む街の施設や探偵事務所、ラブホテルも映画に現れる。

15. その他の店舗・公共施設・公共機関およびそれに伴うサービス

台詞・状況	文化的要素
杉山の妻：ねえ、私、千景とあの婦人服見て来るから、あとで入り口の喫茶店で待ち合わせしない？	日本の百貨店、値段、サービス、ビアガーデン、展覧会
状況：杉山が初めてのグループレッスンの後に他の2人と居酒屋に行く。また、青木と杉山が豊子と青木の喧嘩の後に居酒屋で話す。	居酒屋、仕事の後に同僚と行くことが多い、本音で話せる場・本音が聞ける場、建前
青木：よかったら、今度僕が行っているダンスサークルのパーティーに来ませんか。 状況：その後、杉山は小学校の体育館で行われるダンスパーティーに行く。	小学校の体育館、小学校の施設利用
青木：(豊子について)どうせどっかの小金持ちで、暇持て余して、ホストクラブかなんかのつもりで来てるんだろう。	ホストクラブ、専業主婦、娯楽

状況:杉山の妻が探偵事務所に行く前に歩道橋が見える。	歩道橋、横断歩道、信号
状況:杉山の妻は杉山の行動の変化を心配し、探偵事務所に調査依頼に行く。調査の結果が出た後、結果を探偵事務所で聞く。 探偵助手:(探偵に)ノイローゼって、あなたは探偵で、カウンセラーじゃないでしょ。頼まれもしないのに尾行して。 杉山の妻:(杉山に)探偵雇ってあなたのこと調べてもらったの。	探偵事務所、探偵調査依頼、調査理由(浮気、人探し、結婚、就職、等)
青木:あっ、いや。そういうつもりじゃないから、安心して。ここ抜けたほうが駅に近いんだ。(ラブホテル街の手前での青木とまりかとの会話)	ラブホテル、住宅事情
状況:豊子が過労で入院したときに杉山を含むダンス教室の人々が見舞いに行く。豊子は点滴をうけている。 杉山の同僚:じゃ、僕は救急車を。(杉山と青木がトイレで抱き合い、組み方の練習をしている時に同僚が入って来た。誤解されないように青木が気を失ったふりをした時の同僚の言葉)	病院、点滴、見舞い、救急車、119番、緊急自動車、消防車、パトカー、白バイ、110番
状況:杉山は舞のさよならダンスパーティーに行かずに、時間をつぶしている時にカウンター席のみのうどん屋で食事をする	立ち食い、日本のファーストフード
状況:杉山は舞のさよならダンスパーティーに行かずに、時間をつぶしている時にパチンコ屋に行く。	パチンコ、娯楽、ギャンブル、パチプロ、スロットマシン

4.3.2 職業

主人公の杉山は経理課の課長ではあるが、映像から見ると大企業ではなく、小さい会社のように見える。杉山の仕事場での場面があり、それを通して日本の会社に関する基本的な要素が確認できる。

16. 職業

台詞・状況	文化的要素
金子(杉山の部下): ああ、課長、大丈夫ですか。 久子(杉山の部下): 課長、もう一軒行きましょう。 ----- 久子: 課長は好きですか、経理。 ----- 服部: あなたなんてね、一流企業の部長さんという感じで、サークル来たら、も、キャーキャー大もてですよ。 ----- 杉山: 部長じゃないですけど、私は所沢の先の方だから電車で。	組織でのランク、課長、部長、係長、主任、社長、副社長、専務、重役、管理職、平社員

<p>久子：課長、もう一軒いきましょう。たまには経理も接待認めてもらわないと。</p> <p>-----</p> <p>久子：ああ、つまんない。営業ばっか会社支えてると思って。ゴルフ、料亭、チーママ、エッチ……。経理なんてやってらんねえよ。</p> <p>-----</p> <p>久子：また、とぼけちゃって。いつもいい加減なんだから。システム情報課のくせして、ウインドウズも知らないのに、なにが「どうコンピューターの調子？」よね。</p>	<p>会社の組織、経理、営業、システム情報課、人事、財務、総務、庶務、広報、秘書、等</p>
<p>久子：課長、もう一軒行きましょう。たまには経理も接待認めてもらわないと。</p> <p>金子：お前、何馬鹿なこと言ってんだよ。自分の部下に接待してどうすんだよ。</p> <p>久子：ああ、つまんない。営業ばっか会社支えてると思って。ゴルフ、料亭、チーママ、エッチ……。経理なんてやってらんねえよ。だろう、金子。</p>	<p>接待文化、ゴルフ、料亭、特に営業の社員</p>
<p>状況：杉山（課長）の机が部下の机と離れており、部下が見渡せるところに配置。</p>	<p>管理職の机の位置</p>
<p>青木：いいじゃないですか。順調に出世もしてるし、同期の星ですよ。</p>	<p>出世、年功序列 実力主義、リストラ</p>

4.3.3 人生

「Shall we ダンス？」の映画はごく平凡なサラリーマンの人生の一部を扱った映画である。日本人の人生に関する議論を提供してくれる。

17. 人生

台詞・状況	文化的要素
<p>青木：社交ダンスやってるなんて知られたら、変態扱いされかねませんからね。気をつけてます。ただでさえいい年して、一人もんで。(青木は杉山と同期で、40才半ば)</p>	<p>高齢独身者に対する風当たり</p>
<p>青木：それで、音楽によって体を動かしていると本当に楽しいって言うか、解放されるって言うのか。ほら、僕、会社で居場所なかったりするから。</p>	<p>ダメ社員、生きがい、いじめ</p>
<p>探偵：素行調査と言っても、最低50万円はみていただかなければなりませんよ。もっとも裁判に備えてあらゆる証拠を押さえておきたいとかそんな場合ですけどね。いわば離婚を前提とした調査ですな。</p>	<p>離婚、離婚率、年金分割</p>
<p>舞：(5才の時にイギリスで見たダンス大会でのすばらしいペアについて) その時、父と母は言ったの。すばらしいカップルだねって。私がどうしてって聞くと、父は彼は最後まで自分のパートナーをまもろうとしたんだよって教えてくれた。初めてブラックプールを見たあの日から私にとってダンスがこの世の全てになった。</p>	<p>生きがい、感動、人生に影響を与えるもの</p>

杉山：いい年してこんな言い方、恥ずかしいんですけど、毎日、毎日、生きてるなって感じがして、なんだか疲れるのもかえって気持ちいいんです。	中年のイメージ、「年相応」の言動
杉山：28才で結婚、30才で子供が生まれて、40を過ぎたところで念願の家も買った。結婚、出産、マイホーム。そのために全力で働いた。正直言って、幸せな人生だと思った。ところが、家を買ったとたんに、何かが変わってしまった。妻に不満がある訳ではない。子供がわかない訳ではない。でも、何かが変わった。今度はローンを返すために頑張ればいいのに、気持ちはそう思ってるのに、何かが違う。	結婚年齢、人生設計、倦怠期、生きがい

4.3.4 女性

「Shall we ダンス？」の映画では異なるタイプの女性が出てくる。女性の地位や生き方について学生に意見を言わせたり、ディスカッションさせたりする際のいいテーマになる。主な女性の登場人物は次のとおりである。

18. 女性の上場人物

- a. 舞：ダンス教室を経営する両親の影響で小さいころからダンス一筋の女性。トップクラスの大会に出られるレベルだが、自らの問題でパートナーを失い、その後も新しいパートナーが見つからず、嫌々父のダンス教室で教えている。
- b. 豊子：夫に先立たれ、いくつかの仕事をこなしながら女手一つで娘を育てあげた女性。趣味で舞が教えるダンス教室に通っているが、典型的な日本女性とは異なり、思うことをはっきりと口に出す中年女性。
- c. 珠子：舞の父が経営するダンス教室で教えている初老の上品な女性教師。杉山たちのグループレッスンを受け持つ。状況はわからないが、独身。
- d. 杉山の妻：娘が小さい間は専業主婦であったが、娘が大きくなったので働き始める。杉山の異変に気づくが自分からは何も言えない伝統的な日本女性。

映画では次のような女性に関係する発話、状況が見られる。

19. 女性

台詞・状況	文化的要素
杉山の妻：お母さんね、働くの13年ぶりでしょう。あんたがお腹にできて、仕事やめたから。だからね、大変だけど、なんだかちょっと楽しいの。ローンができてよかったわ。生活に張りができちゃった。	女性の人生、出産、育児、女性の就労率(M字カーブ)、女性の職種、賃金
杉山の妻：だいたいお父さんが早起きしてるっていうのに、お母さんが寝ているっていうのも結構つらいのよ。 杉山の娘：だったら、一緒に起きればいいじゃん。 杉山の妻：だって、お父さんが無理しなくてもいいって言うんだもん。	妻の生活、夫婦関係、世代間格差

<p>探偵：ご主人にそれとなくお尋ねになったことは？ 杉山の妻：え、何度かそうしようかと思ったんですけど。 探偵：思ったんですけど？ 杉山の妻：怖いんです。あの人、まじめだから、もし女の人がいるとしたら浮気じゃすまない気がして。 ----- 杉山：知ってたのか。 妻：ええ、ずっと前から。だけど、なんだか怖くて言い出せなかった。</p>	<p>伝統的な女性、妻、夫婦間の会話</p>
<p>青木：あのくそばばあさえ余計なことしなきゃ。どうせどっかの小金持ちで、暇持て余して、ホストクラブかなんかのつもりで来てるんだろう。</p>	<p>専業主婦、有閑マダム</p>
<p>状況：杉山の妻は杉山のために予定通り夕食の準備をしているのに、杉山は内緒でしているダンスのために待たせる。</p>	<p>主婦と家事</p>
<p>状況：豊子は青木が言ったような小金持ちでも暇を持て余してダンス教室に来ているのではなく、実際は母子家庭なので、自ら働いている。杉山はある日偶然外出中に、トラックを運転し、夕飯の配達をしている豊子を見かける。 ----- 豊子の娘：すみません。過労で倒れたのこれで3回目なんですよ。 ----- 豊子の娘：朝のビル掃除に始まって、夕ご飯の配達、時々知り合いのレストラン手伝って、夜は毎日いろんなどこでダンス、ダンス、ダンス。過労で倒れるの当たり前なんですよ。 ----- 豊子の娘：(杉山について) 母からいつも教室のこと聞かされてるんです。ちょっと渋めのいい男で、死んだ父さんに似てなくもないけど、奥さんも子供さんもいるのよねって、残念そうに言っていましたから。</p>	<p>母子家庭、女性の賃金、重労働、生きがい</p>

4.3.5 考え方・価値観

映画や小説でも多くの行動や発言の中に文化が内包される。「Shall we ダンス？」も例外ではなく、いくつか考え方や価値観に関する話題を提供している。

20. 考え方・価値観

台詞・状況	文化的要素
<p>舞：チケットは1万円、3万円、5万円とありますけど。 杉山：(すまなさそうに) じゃあ、1万円の、すみません。</p>	<p>安い方を選んで申し訳ない気持ち</p>
<p>青木の最初のパートナー：もう、やんなっちゃうな。どうしてもパートナーになってくれってうるさいから、ついて来てみれば、みっともないったらありゃしない。よくも恥かかしてくれたじゃない。あんたとなんか絶対組まないからね。(青木と喧嘩をした豊子が青木の頭を触った時にかつらが取れてしまった直後の発話)</p>	<p>恥の概念</p>

<p>舞の父：今のお前は岡田君を見返すためだけに相手を決めようとしているんだ。どうしてパートナーを解消されたか考えたことあるのか？</p> <p>舞：彼の裏切りじゃない。私は完璧に踊ったわ。</p> <p>珠子：それで今回はモダンに絞るかどうか相談しようと思ったの。そしたら、青木さんから電話があって、どうしても今度の大会には出なくちゃならない。見返したい人がいるって。(青木とダンスホールに踊りに行ったが、その後青木の踊りが気持ち悪いと言って去って行った相手のこと)</p> <p>杉山：勿論、何と言うか、あなたに好意を持って、それが目的でこの教室に入ったことは事実だけど、あんなふうに言われたことは、ショックだった。そんな言い方しなくてもいいのにと。あなたに思い知らせてやろうとしたんです。あなたが目的じゃない。ダンスをするためにここに来てるんだって。</p> <p>舞の手紙：彼(=岡田)は勝っても負けても、このブラックプールを最後にカップルを解消しようと思っていたというのです。私には理解できませんでした。誰よりも長く一緒にいて世界を目指していたのに、どうして私を裏切るのか。私はすぐに日本へ帰って来ました。そして、彼を見返してやりたい一心で優秀なダンサーを探しました。</p> <p>舞の手紙：それまでの私は相手を心の底から信頼することなしに、自分一人で踊っていたのだとういことに気づき始めたのです。ブラックプールでの失敗はリーダーが私を裏切ったのではなく、リーダーを裏切り続けていた私の踊りの当然の結末だったのです。</p>	裏切り、復讐 執念、信頼
--	-----------------

裏切りと復讐は古代から劇や小説のテーマになっており普遍性を強く持つ要素であると考えられるが、その具現化は文化によって異なるかもしれない。つまり、どのようなことに裏切りを感じるかとかどのような復讐をするかという点では質的な違いがあり得るのではないかと思うが、それもディスカッションの話題にすることもできる。

4.3.6 習慣・社会・制度

前節の「考え方・価値観」は本節の「習慣・社会・制度」と本質的には同じカテゴリのもので、本稿では便宜的に別の節で扱っていると考えていただきたい。

21. 習慣・社会・制度

台詞・状況	文化的要素
状況：杉山が部下の久子、金子と飲みに行く。 久子：課長、もう一軒行きましょう。	同僚と飲食する意味、本音、関係強化、一次会・二次会、はしご

<p>状況：杉山は初めてのグループレッスンの後、同じグループの服部、田中と居酒屋に行く。</p> <p>状況：杉山が青木と豊子の喧嘩の後、青木と一緒に居酒屋に行く。</p>	
<p>状況：娘が朝食を食べている時の食器の位置</p>	<p>ご飯茶碗(左)と汁椀(右)の位置</p>
<p>状況：杉山は青木にビールの酌をする。その後、手酌で自分のジョッキにビールを注ぐ。</p>	<p>お酌、手酌、酌の意味</p>
<p>状況：居酒屋で座敷席に戻って来たミニスカートの客が靴を脱いだ後、靴を回転しきれいに並べた。</p>	<p>靴の脱ぎ方</p>
<p>服部：さてと、私、東十条ですけど、お二人の方向は？一緒やったら、送って行きますけど。車で来てますから。(服部は居酒屋を去る直前までビールを飲んでいた模様)</p>	<p>飲酒運転(2006年に起きた事故から飲酒運転に対する社会的規制が強くなった。)</p>
<p>探偵：しかし、素行調査と言っても、最低50万円はみていただかなければなりませんよ。もっとも裁判に備えてあらゆる証拠をおさえておきたいとかそんな場合ですけどね。</p>	<p>裁判、裁判制度、家庭裁判所、簡易裁判所、地方裁判所、高等裁判所、最高裁判所、弁護士、判事、検事</p>
<p>青木：社交ダンスやってるなんて知られたら、変態扱いされかねませんからね。気をつけてます。ただでさえいい年して、一人もんで。女目当てだと思われるの当たり前ですから。</p>	<p>世間体</p>
<p>青木：社交ダンスやってるなんて知られたら、変態扱いされかねませんからね。気をつけてます。ただでさえいい年して、一人もんで。女目当てだと思われるの当たり前ですから。</p> <p>珠子(ダンスホールで)：やだ、私ここでアルバイトしてるのよ。ひとりもんでしょ。レッスンない日はすることないし。踊らないのも寂しいからここでダンサーしてるの。</p>	<p>独身者の増加、結婚年齢の上昇、少子化</p>
<p>舞：勝つためにはとにかく目立つこと、動くこと。何しろ十何組も一緒にフロアに立って、踊る時間はたったの一分そこそこ。</p> <p>舞：ワルツはね、・・・始まってすぐはフロアの中央が空くの。空いた真ん中にいきなり飛び出して変わったことをやれば、いやでも審査員の目を引くわ。</p>	<p>「出る杭は打たれる」、画一社会、自己主張、自己表現、個性</p>
<p>服部：杉山さん、表情、かたいな、もう。リラックス、リラックス。ほな、行きますよ。はい、チーズ。(写真撮影)</p>	<p>写真撮影、「チーズ」、Vサイン</p>

4.3.7 社交ダンス

最後に日本文化紹介項目で優先順位をつけるとすると高位に位置することはないが、この映画では重要な要素である社交ダンスに対する評価が映画の随所で見受けられる。

特に映画の始めの方では日本語学習者にとってなぜ杉山がダンス教室に行くことを躊躇するのか、またなぜ家族にまでも内緒にしておきたいかということはわかりづらいだろうが、映画を見ていくと社交ダンスに対する日本人の固定概念がわかってくる。

映画での台詞と状況から次のような日本人が社交ダンスに持つ固定概念がわかる。

22. 社交ダンスに対する固定概念

- a. 社交ダンスをしている男性は変態だと思われかねない。
- b. 社交ダンスをしていることを他人に知られると恥ずかしい。
- c. 社交ダンスをしているのはおじさんやおばさんが多く、似合わない。
- d. 日本人は社交ダンスが似合わない。(スタイルが問題か)
- e. 社交ダンスをしているのは女のほうが多い。

23. 社交ダンス

台詞・状況
状況：杉山が初めてダンス教室がある建物と部屋に入る時に何度も躊躇する。
舞：こちらに連絡先と名前をお願いします。 杉山：連絡先ですか。(書きたくなさそう。)
舞：差し支えがあるようでしたら、お名前だけでも結構ですけど。
服部：何々、部長さんも遠いじゃないですか。どうしてみんなこう遠くの教室に行くのかな。なんちゃってね。やっぱり、恥ずかしいですよ。知ってる人に会っちゃったら。ほんと。ダンス習ってるなんてばれたらね、だだのスケベおやじと思われまますからね。私なんてね、もうダンス教室の階段上がる時、辺りうかがっちゃ・・・うかがっちゃってますもんね。
青木：社交ダンスやってるなんて知られたら、変態扱いされかねませんからね。気をつけてます。ただでさえいい年して、一人もんで。女目当てだと思われるの当たり前ですから。
杉山：ええ、あの、ちょっとこのところ運動不足だったし、ダンスは体にいいらしいんで。 青木：そういう人、多いんだ。みんなそう言うんだ。でも、杉山さん、会社には内緒ですよ。何言われるか分かったもんじゃないんだから。
青木：一人で来づらかったら、一緒に習ってる人誘えばいいですよ。とにかく、女のほうが多いから男は大歓迎。
探偵：ダンスって、これだろう？笑っちゃうぞ、ありゃ。みっともないだろう。日本人がおばさんとおじさんで。
探偵助手：毎週水曜日、ここでダンスレッスンを受けてます。 探偵：んー、ダンスね。変なことに巻き込まれてたっていうわけだ。
探偵：どうしてダンスを始められたのかわかりませんが、奥さんに内緒になすっているのは、単に恥ずかしいからでしょう。
豊子の娘：(ダンス教室の人達の前で)でも、笑っちゃいますよね、日本人の社交ダンスって。あ、ごめんなさい。調子にのって、余計なことまでしゃべっちゃった。
久子：ドニー青木よ。あのハゲが。それもさ、社交ダンス。スケベおやじの考えそうなことよね。いやらしいったらありゃしない。

4.4 結語

日本語の授業における映画利用には大きな可能性があり、色々な使い方ができる。本稿では文化的な要素を紹介するに十分な内容と数を備える映画の存在を明らかにしたが、語彙、表現、文法、句型などの面でも、表現意図の学習、練習のためにも利用価値は高い。高橋(2006)が述べているように、映画に内包されるいくつかの特定の要素に絞った授業をすることも可能であるし、時間的な余裕があれば、さまざまな要素を含めた授業も可能である。

24. TV ドラマを教材とした授業の発展可能性は広い。狭い目的に絞り込んだ使い方でもできるし、多面的に使用することもできよう。(p.79)

そうなると教師の方がいかに映画を利用するかをきちんと考えておくことが重要性を持ってくる。国立国語研究所(1995)が言っているように、映画には言語、画像、音声など色々な情報が含まれているゆえに、学習者は特に学習のために何に注目していいかわからないという混乱を来たす可能性がある。

25. 教師による説明や働きかけは、授業過程の中での効果的な VTR 教材の使用法そのものを決定する要因となる。したがって、学習者に何の目的も意識させず VTR 教材をただ視聴させるだけという利用法だけは避けなければならない。

・・・視聴の際に、教師が、何に注目して視聴すべきか(視聴の目的)を説明したり、視聴後に何をするのか(視聴後学習活動)を説明したりすることが意味づけになる。(p.84)

教師としては学習者に対して何をしたいか、何に注目したらいいかを明確に示して授業を進める必要があるだろう。

今回は「Shall we ダンス?」について分析したが、他にも特に文化面で多くの要素を含み、日本語の授業で使える映画のリストがあれば映画の利用がもっとしやすくなるだろう。

参考文献

- 国立国語研究所(1995)『日本語教育指導参考書 21 視聴覚教育の基礎』国立国語研究所
坂根容子(1998)「映画を使った教材の開発と授業報告-映画「Shall We ダンス?」を用いて-」『日本語教育論集』関西外国語大学留学生別科第8号、pp.59-72
高橋純子(2006)「報告」『テレビドラマ聴解の授業報告』『日本語教育論集』21号、筑波大学留学生センター、pp.77-96

- 渡嘉敷恭子 (1997) 「テレビドラマを使ったビデオ教材の開発と教育活動」『日本語教育論集』関西外国語大学留学生別科第7号、pp.119-136
- 中道真木男 (1996) 「授業計画と視聴覚的教育手段」基調講演要旨、『視聴覚教材フォーラム3 (1996年) 記録』、国立国語研究室日本語教育教材開発室、pp.5-8